## ＜全体分析＞

| 試験時間 | 90　分 |
|---|---|

**解答形式**
記述(70点)・論述(30点)
**分量・難易(前年比較)**
分量(減少・やや減少・[変化なし]・やや増加・増加)
難易(易化・やや易化・[変化なし]・やや難化・難化)
大問4題・小問70問・論述2問
**出題の特徴や昨年との変更点**
時代別では、例年通り原始・古代、中世、近世、近代・戦後からそれぞれ25%程度出題された。
分野別では、社会経済から50%程度、政治から30%程度、文化から15%程度、外交から5%程度出題された。
**その他トピックス**
Ⅳ(1)では、図版を用いた論述問題が初めて出題された。なお、本問の類題が2007年度にも出題されている。

## ＜大問分析＞

| 番号 | 出題形式 | 出題分野・テーマ | コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど） | 難易度 |
|---|---|---|---|---|
| Ⅰ | 記述<br>〈史料〉 | 古代・中世・近世<br>政治 | Ａ百済王敬福薨伝（『続日本紀』）<br>Ｂ中先代の乱（『梅松論』）<br>Ｃ自分仕置令<br>(1)の短文記述は、史料2段落目の3～4行目の読解から解答したい。(4)「高野新笠」は難。(7)(あ)(い)の短文記述は、史料冒頭の西暦や、(注)および(11)の設問文の「尊氏」を念頭に史料4～6行目を読解し、中先代の乱に関する史料であると類推したうえ、「御奏聞」の対象が後醍醐天皇であることをふまえて解答したい。(9)の短文記述は、史料6～7行目から、当時建武政権に反感を抱く武士が多かったことを読みとりたい。(15)「生類」は、「元禄10年(1697)」と、2度目の空欄から判断できる。(16)の短文記述は、史料5～6行目の内容を慎重に読解して解答したい。 | 標準 |
| Ⅱ | 記述<br>(短文空欄補充) | 古代～戦後<br>総合 | ①古代の大宰府　②院政期の絵画<br>③鎌倉時代の仏像　④室町時代の文化<br>⑤近世初期の朝廷政策　⑥近世の村<br>⑦江戸時代の俳句・川柳　⑧伊能忠敬の測量事業<br>⑨四大公害訴訟と政府の対応<br>基本事項中心の出題であり、高得点が期待される。 | やや易 |
| Ⅲ | 記述<br>(前提文) | 中世・近世・近代<br>総合 | Ａ惣村と土一揆・徳政令<br>Ｂ江戸時代の水運<br>Ｃ近代における学生野球の歴史<br>ク「長崎」は、鎖国体制下において中国船の来航が許された場所から正解を想起したい。(6)「たたら製鉄」はやや難だが、過去にも出題例がある。(10)「銚子」は、同じ下総の醤油の産地である野田との判断に迷っただろう。(11)「高田屋嘉兵衛」は、「エトロフの航路を開いた商人」から判断せねばならず、やや難。(14)「社会大衆党」はやや難。 | やや易 |

© 河合塾　2024年

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| Ⅳ | 論述 | 原始・近代<br>社会経済 | (1)縄文時代の生業<br>縄文時代における自然環境の変化をふまえて、ａ～ｄの遺物の名称や用途を明示しつつ、当該期の生業が狩猟・漁労・採集に基盤をおくものであったことを論じたい。<br>(2)近代産業と女工<br>松方デフレにともなう自作農の没落・小作農の増加を女工が生み出された背景として指摘したうえ、女工が輸出産業である紡績業・製糸業に安価な労働力を供給し、産業革命の進展に寄与したことを論じたい。 | 標準 |

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## ＜学習対策＞

①Ⅰ～Ⅲの記述 70 点、Ⅳの論述 30 点の配点を念頭に置いた学習計画を立てることが大切である。
②全時代・全分野からまんべんなく出題される。Ⅰ～Ⅲの記述式で高得点を確保するために、教科書を欄外の脚注なども含めてマスターしたい。
③Ⅳの論述問題は対策の有無によって得点差がつく。早い段階から学習対策を立てて問題演習を行い、できる限り添削指導をうけること。
④史料問題は基本的に未見史料から出題されるが、市販の史料集などを利用して日頃から史料に慣れ親しんでおきたい。
⑤京都大学特有のひねりをきかせた設問対策として、夏期・冬期・直前講習および京大入試オープン・河合出版『入試攻略問題集　京都大学　地理・歴史』などの積極的な利用を薦めたい。

© 河合塾　2024 年